

初認調査から見えるミヤマガラスの渡り行動

高木憲太郎(NPO 法人バードリサーチ)

ミヤマガラスは9月ごろになると大陸から渡ってくる冬鳥である。かつては、九州地方とその周辺のみで渡来していたが、1980年代から分布が広がり、1990年代後半には東海地方や関東地方でも観察されるようになった。この分布拡大の経緯について、2004年11月から2005年7月の間にアンケートと文献による調査を行なったところ、1980年代から中国・四国地方に本格的に分布が広がり始め、その後日本海側を北東へと広がり、最後に太平洋側に広がったことがわかった。

この調査結果を受けて、現在のミヤマガラスの渡りルートを調査するために、2005年の10～12月に全国各地の初認時期の調査を行なった。調査は2004/2005年の冬期に行なった分布拡大の調査に協力して下さった方々を中心に調査への参加を呼びかけ、それらの方々が、他の調査や観察などで水田地帯などに出かけた際に、ミヤマガラスがいるかどうか確認し、いた場合に個体数をカウントしていただくという形で行なった。112件の情報が集まったが、調査頻度は必ずしも高くなかったので、全ての地点で正確な初認が得られたわけではない。しかし、大まかな傾向はつかむことはできた。

今回の調査によって得られた最も早いミヤマガラスの記録は、福岡県小郡市の10月4日であった。その後、西から少しずつ記録が得られるかと思われたが、10月中旬に宮城県亘理町(15日)、青森県龍飛岬(16日)、新潟県福島潟(17日)と続き、福岡の次に西日本で初認が得られたのは島根県の出雲平野(10月21日)であった。この限られた情報からでは断言できないが、西日本と東北から交互に記録が得られたことから、渡りルートは、九州などに朝鮮半島を経由して渡ってくる他にも、東北などへ直接渡ってくるルートがあることが示唆された。

さらに、10月下旬の10日間で、全国から40件の記録が一斉に集まった。このことから、ミヤマガラスは日本に渡来した後、休息を取りながら徐々に太平洋側へ移動しているわけではなく、大陸から越冬地目指して一気に渡ってきている可能性が高いと思われる。

また、同じ地域で複数の記録が集まったものについて、観察された個体数の変化をしてみると、渡来の初期は少なく、次第に増えるという傾向が見られた。

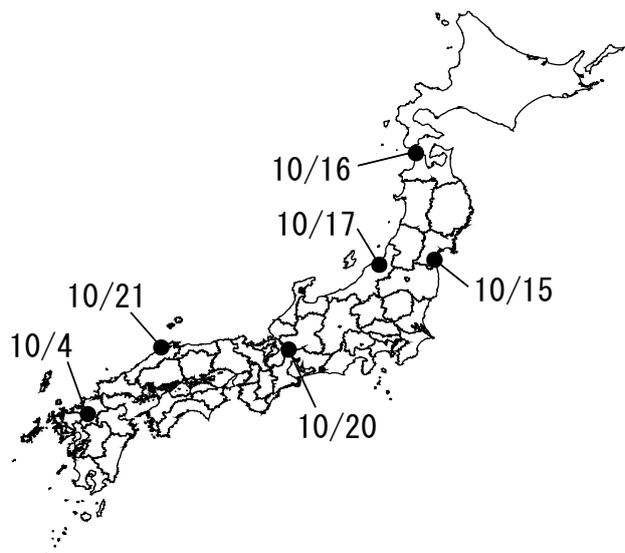


図. ミヤマガラスの確認地点(10月1～21日)